



# 国宝 武人埴輪の謎

～まさか!?我が家が古墳群だった!?

今、その謎が解き明かされる!～

太田市立太田中学校 2年

十河 愛寧

# 1 きっかけ

私の家の周囲 10 軒位は、土地の高さが高いのでその理由を父に尋ねると、このひと言が返ってきました。

「ここ、古墳群だったらしいよ。」「近くの神社に埴輪が立っているから見てくれば・・・。」

私は、すぐ近くの神社へ行ってみると、そこには刀を持った埴輪が立っていました。父に尋ねると、「近所で出土し、国宝になっている埴輪のレプリカだよ。それ以上はよく知らないなあ。」と言っていました。

確かにそれは教科書などで見たことがある埴輪でした。教科書を見返してみると写真と共に「群馬県太田市出土」と記載されていました。しかし、それ以上の情報は書かれていませんでした。

「国宝？」そんなにすごい物が家の近くから出土したのになぜよく知らないのだろうと思い調べることにしました。

## 2 調査

まず、埴輪が立っている長良神社は無人で看板もないので、太田市役所文化財課へ行きました。対応してくれた人は、実は国宝になっているのに資料が少ないということで、その埴輪のことが掲載されている本を紹介してくれました。その本は、「九合村物語」と「国宝 武人ハニワ、群馬に帰る！」でした。

家に帰ると、父から「土地を購入したときにこんな資料を貰ったぞ。」と飯塚古墳群（第Ⅱ次）というものを渡されました。

飯塚古墳群（第Ⅱ次）を見ると地図があり飯塚古墳群の中心は我が家でした。また、古墳が 11 基あったという記載がありました。これは驚きです。

「国宝 武人ハニワ、群馬に帰る！」には、

“ 円筒形の台の上に立つ武人埴輪の全身像である。衝角付冑を被り、頬当てと後頭部には、鍔（しころ）と呼ばれる防具をつける。胴部には小形の鉄板（小札）を革紐でつなぎ合わせて作った挂甲をまとう。肩には肩甲、腕には籠手を着用する。右手には、左腰に下げられた太刀の柄を握り、左手には弓を持っている。左手首には鞆が巻かれている。脚部にも膝甲と臍当てがつけられている。背中には奴舩形の鞆を背負い、上向きに入れられた矢は細部まで表現されている。

この武人埴輪と持物や装備に若干の違いはあるものの、ほぼ同様なつくりをしたものが太田市・伊勢崎市周辺を含め五例出土している。それは本例と太田市成塚町出土例（相川考古館蔵）・太田市世良田出土例（天理大学付属天理参考館蔵）・伊勢崎市安堀出土例（国立歴史民俗博物館蔵）・太田市内出土例（シアトルアジア美術館蔵）である。このうち本例と太田市成塚町出土例は、背中に鞆を背負い、右手で太刀の柄を握るいわゆる「抜刀スタイル」のものである。（中略）

この一群の武人埴輪は甲冑やその持物が写実的に表現された精巧なものであり、太田市・伊勢崎市を中心とする群馬県東部地域に拠点をおく同一の集団によって製作された埴輪であると推定されている。 ”

と書いてありました。（p56 より）



また「九合村物語」には、

“ 九合小のすぐ南に長良神社があるが、明治末～大正初期まではそれより数百m東にもう1つの長良神社があった。飯塚はカミ、ナカ、シモ、マツバラと4つのクルワ（「廓」等と表記する）に分かれているが、現在ある長良神社はナカの長良神社で、もう1つ、マツバラに長良神社があり、この神社の敷地内に小高い塚（古墳）があった。神社としては、明治時代末にナカの神社と合併した（国の神社合祀令による：合併の経緯については小舞木の賀茂神社の項を参照）が、塚はそのまま残っていた。岡田安弘さん（大正13年生まれ）が子供の頃にはまだこの塚があり、その上に登って遊んだという。昭和の初期に不況対策の公共事業で道路改修を行った際に、この塚を崩して土を工事に使用した。そのときに色々な出土品が出た中の1つが国宝に指定されている武人埴輪だった。出土品はしばらく軒下に適当に並べられていたが、価値を知らない人が叩いて壊してしまったものもかなりあったという。

その神社のすぐ東の家に住んでいた岡田銀太郎（故人）は実際の工事に参加して、出土するのを見たという。中庭武男さん（昭和3年生まれ）は岡田さん本人から直接その話を聞いている。その後、埴輪がどういう経緯で国の所有となったかは明らかでないが、岡田さんによるとかつては、長良神社の社殿の中に帝室博物館（国立博物館の前身）からの感謝状があったそうだ。（現在は紛失）（中略）

マツバラの長良神社は今では宅地になって住宅が建っているものの、神社があった区画、また神社への参道は当時のまま残っている。神社跡にはかつて、「長良神社遺址大正3年」という石碑が建てられていた。しかしいつの頃からかその碑はナカの神社境内に移動されている。”

と書いてありました。（p234）

「九合村物語」に登場した中庭武男さんにお会いし話を聞いてみたいと思いました。

近くに住んでいる祖父に「中庭武男さんって知ってる？」と聞いてみたら、「知ってるよ。」「まだこの近くに住んでいるよ。」と言っていました。そこで8月2日（日）に父と近くの中庭さんのお宅を訪ねました。

私：「すみませ～ん。中庭武男さんのお宅でしょうか。」

中庭さん（以降「中」）：「はい、そうです。」

私：「近所の十河といいます。埴輪の勉強をされていて、この辺りで埴輪が出土して、中庭さんがその話をしている本を見て訪ねて来たんですが…少しお話を伺ってもいいですか。」

中：「はい、どうぞ。」

私：「ありがとうございます。」

中：「私は、中庭武男です。」

私：「この資料の中に中庭武男さんという記述があって、もう1人岡田銀太郎さんの名前が出てきたのですが…岡田銀太郎さんの家はどの辺ですか？」

中：「ここを左に出て、まっすぐ進んで左に入ったところがそうですが、もう亡くなりました。」

私：「マツバラの長良神社についてお聞きしたいのですが、マツバラの長良神社はどこにあったんですか？」

中：「すぐそこです。このとなりの住宅のところ。私が子供のころ古墳だったからよく乗って遊んだものですよ。小高い山になっていたのだ。私が覚えている頃にはも

今はマツバラという廓はない

とてももったいない

写真5・6

地図2の①の所

写真1

地図2の②の所

地図2のA  
写真2



う向こうへ行っちゃっていたからね。学校の前に。ん〜と。向こうへ行ったのが大正何年とかって書いてある石碑が立っているんですよ。もともとあそこは長良神社とね、小舞木の賀茂神社がくっついたもんなんですよ。だからね、今あそこは長良賀茂神社っていうんですよ。」

私：「なるほど。で、武人埴輪っていうのはここから出たんですか？」

中：「そうです。」

私：「それは、この中庭さんの敷地から出たんですか？それともその（マツバラの）神社から出たんですか？」

中：「神社の敷地からでたらしいよ。」

私：「この資料に道路を広げるためにマツバラの長良神社の塚の土を使ったと書いてあるんですがその道路っていうのはどの道路ですか？」

中：「この前の道路です。この道路は昔農道だったんですよ。昔はね、車なんてなかったから馬が通ればよかったんだ。それで狭い道路だったんですよ。それで昭和初期にね、ものすごい経済的に不況の時代があったんですよ。それでその時にもう仕事もないし収入もなくてみんな農家の人が困っちゃったんですよ。その時にその道路をじゃ広げましょうってことで…何のために道路を広げたのかっていうとね、労働者に賃金を払うため。で、救済道路って言ったんですよ。その時に、道路を広げるためには土が必要ですよ。で、どこの土を持ってきたらいいかっていうことで、これが神社の跡地ですからね、小高い山だったんですよ。その土を利用して道路を広げたんですよ。それで農家の人たちがいくらかの賃金がもらえたんですよ。そのためにここを救済道路って言ったんですよ。」

私：「畑ばかりで道を広げても問題なかったから？」

中：「そうそう。」

私：「どうゆう経緯で武人埴輪が国立博物館にあるんですか？」

中：「岡田銀太郎さんが20歳頃にその工事に携わったみたいで、その人に聞いた話で。そこで偶然とね、土器などいろんなものが出たらしいですよ。その中で全然興味が無いからね、ひとまじ集めたんだけどこんなの邪魔だって壊しちゃったらしいんですよ。どういうものが出たかは私にはわからないけど。岡田さんが言うにはいろんなものが出たらしんですよ。でそれを今のその中庭さんっていう家の物置にね、一応出たものを入れといたらしいんです。それでその埴輪だけはね、やっぱり少し壊れていたらしいです。それを修復するために頼んだ人が、東京の松原さんって方がこれを修復してくれたんです。それで結局松原さんのものになったんですよ。くれちゃったんですよ。それで完全な武人埴輪に復元してくれたそうです。その人がその埴輪を国に収めたそうです。それで、国宝になっているけど群馬県の所有じゃない。所有者がね。」

中：「昔に国の制度でいくらか田んぼが整備されたんです。今は開発で住宅がいっぱい建っているけど昔は何にもなかったです。」

私：「ハンプティダンプティの所は土地が高いですよ。」

中：「あそこは、古墳だったんだよ。あの岡田貴男さんの家の裏とかね。山だったんだ。」

ここで、中庭さんへの取材は終わりました。この後岡田貴男さんに取材しました。

岡田：「うちの裏も古墳だったって亡くなった父親がよく言ってたよ。」

私：「そうですか。」

そして長良神社に再度出向き石碑を見てきました。

写真 3・4・5・6

地図 2 の A のマツバラの長良神社の前の道路

中庭武男さん宅の南

地図 2 の ④

地図 2 の ③



8月9日、近所の服部さん（地図2の⑤）にお話を伺いました。すると、服部さんは「私の家の前は古墳だったんだよ。地図があるから見せてあげるよ。」と言ってくれて、私はお宅にお邪魔しました。見せてくれた地図は、「群馬県遺跡地図」「上毛古墳総覧」でした。

「群馬県遺跡地図」の中の地図には飯塚古墳群の表記がありました。この地図に書かれていた飯塚古墳群の古墳の数は7基でした。「上毛古墳総覧」には、古墳があったところの住所や出土品の表記までありました。この本の群馬県九合村の古墳の表記は12基でした。付属の地図には九合の所に古墳があったことを示す赤い丸が多数ありました。服部さんの家の前は飯塚古墳群の2号基だったとおっしゃっていました。



しっかり記載があります。東毛に古墳が多くあったことも「上毛古墳総覧」から分かります。







写真1 中庭さんと私

92歳とは思えないほど  
元気な方で、色々な話  
をしてくださいまし  
た。

この辺かな



写真3 長良・賀茂神社



写真2 マツバラ長良神社跡



写真6 石碑拡大



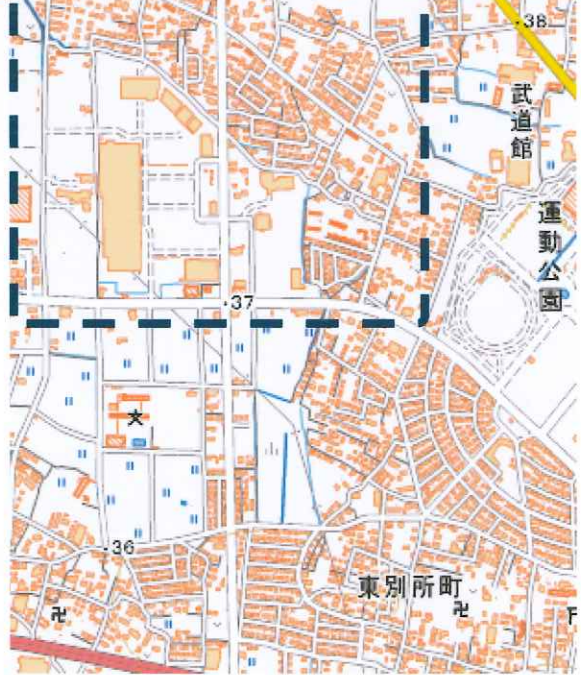
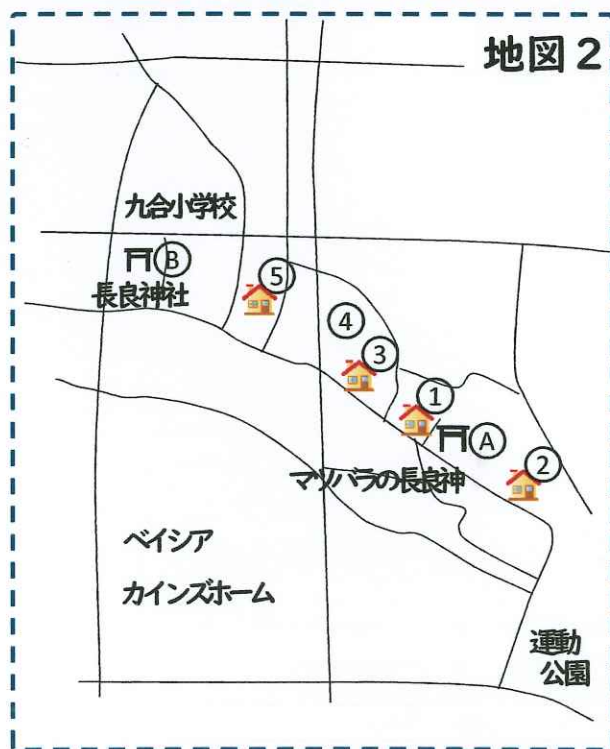
写真5 長良・賀茂神社石碑

神社には何度も行きま  
したが、毎回新たな発  
見がありました。



写真4 長良・賀茂神社





出典は「国土地理院」  
[\(https://maps.gsi.go.jp/\)](https://maps.gsi.go.jp/)



### 3 まとめ

#### \*埴輪のこと

明治末～大正初期までは、マツバラにも長良神社がありました。この神社の前の道路を広げた時に、この神社の敷地内にあった小高い塚（古墳）の土を使いました。道路を広げた理由は経済的に不況の時代（昭和初期）で生活に困っていた農家の人に賃金を払うためです。色々な出土品が出たが価値が分からなかった当時の人は壊してしまったそうです。

武人埴輪は、壊れていたため、東京の松原さんに修復を頼んだそうです。そして完全な武人埴輪になったのです。そのまま松原さんのものになり、その人が国立博物館に譲りました。

この武人埴輪は「抜刀スタイル」で、甲冑やその持物が写實的に表現された精巧なものです。太田市・伊勢崎市を中心とする群馬県東部地域に拠点を置く同一集団によって製作された埴輪であると推定されています。

#### \*飯塚古墳群のこと

太田市飯塚町には、飯塚古墳群がありました。これは、飯塚古墳群（第Ⅱ次）という資料と群馬県遺跡地図、上毛古墳総覧という本、そして、近所のお年寄りの話から分かります。数については資料によって様々ですが、11基か12基という説が有力だと私は考えています。古墳の種類はどの資料にも円墳と記載がありました。

#### \*長良神社のこと

今はもうないがマツバラにも長良神社がありました。この神社は明治時代末にナカの長良神社と小舞木の賀茂神社と合併しました。この合併の石碑は、今もナカの長良神社の境内にあります。その石碑には「大正2年6月」と刻まれています。また、長良神社には武人埴輪のレプリカが立っています。

### 4 感想

古墳と言われると今、実際に見られる古墳に目が行きがちだけど、今回はもう跡形もない古墳を調べました。道路になって車が走っていたり、住宅が建っていたりするところに古墳があり、国宝の武人埴輪が出土したというのはとても驚きました。国宝の埴輪や飯塚古墳群についての資料が少なく困りましたが、近所のお年寄りからとてもたくさんのお話を聞くことが出来ました。そして、現地にて色々なことを推測したり考えたりすることができてとても楽しかったです。まさか私の近所が古墳群だったとは想像したことがありませんでした。

今回見せてもらった資料を見ると群馬、上毛にはたくさんのお古墳があったんだなと思いました。今、実際に見られるまたは残っている古墳はほんの一部なんだなと思いました。昔の人が古墳や埴輪の価値が分からなかったのは少し残念だなと思いました。しかし、今も古墳や埴輪の凄さを知らない人は少なからずいると思います。だから、私たちが古墳や埴輪の魅力を感じて、それを伝えていくのが大切だと思います。

今回のように本や資料から読み取ったり、実際に現地に行ったり、直接お話を聞いたりすることで、資料以上のことを学べたり、新たな疑問が浮かんだり、自分では集められない貴重な資料を見ることが出来たりしたと思います。今は、インターネットが普及し何でもクリック一つで調べられる時代だけど、このように、どんなことでも疑問に思ったことは「とことん調べる」「足を運んで」「話を聞く」そして「最後まで突き詰める」ことがとても大切だと実感しました。これからも、群馬が誇る古墳や埴輪、そして、東国文化に関心を高め、より理解を深めていきたいです。



## 参考文献

\*九合村物語～77の秘密～ 九合村物語編集委員会 2013年

\*国宝 武人ハニワ、群馬に帰る!

\*群馬県遺跡地図 群馬県文化財保護協会 昭和49年3月31日

\*上毛古墳綜覧 群馬縣 昭和13年3月31日

## 表紙の写真

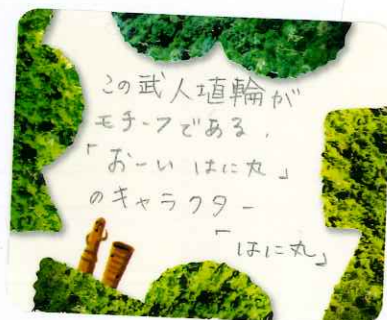
東京国立博物館ウェブサイト 名品ギャラリー 8月10日

## 取材に応じてくれた方

\*中庭武男さん 8月2日

\*岡田貴男さん 8月2日

\*服部晶さん 8月9日 ご協力ありがとうございました。



はに丸?

